



関東甲信越ブロック



発行人
関東甲信越ブロック支部長
高柳 亮

ニュースレター No.19 (2017.12)

1. 平成 29 年度関東甲信越ブロック支部議員総会開催

2017 年 11 月 19 日、大宮において開催された第 6 回関東甲信越ブロック地方会において、平成 29 年度第 2 回議員総会が開催されました。

冒頭、司会の大橋博樹先生から、出席された代議員数が 52 名で、委任状 223 名とあわせて 275 名となり、本議員総会が成立したことが報告されました。その後、東京都支部の石橋幸滋先生を議長に選出し、議事運営を進めていただきました。

報告事項では、今年初めて開催された新専攻医オリエンテーションについて、プロジェクトリーダーを務められた東京の喜瀬守人先生よりご報告いただきました。オリエンテーションには関東甲信越ブロックの新専攻医の 5 割以上となる 25 名が参加し、参加者からは「今後何を学んでいくのか理解できた」「他施設の研修の様子が参考になった」「同期や先輩と繋がりができた」といった声が寄せられるなど、大変好評であったことが報告されました。

続いて高柳からブロック直接補助事業の応募状況についてご報告いたしました。今年度も 6 月より募集を呼びかけてきたブロック直接補助事業ですが、10 月 19 日締切までに応募がございませんでした。平成 27 年度 2 件、28 年度 1 件、今年度 0 件と件数が漸減してきており、ニーズが減ってきている可能性も考慮されました。そこで直接補助事業に割り振ってきた予算を、新専攻医オリエンテーションなど、若手の養成に係る事業の予算に充てる方向性を提起させていただきました。協議の結果、平成 30 年度についてはブロック直接補助事業（1 件 15 万円）の募集件数を 3 件から 2 件に減らし、新たに新専攻医オリエンテーションの補助に 15 万円の予算をつけることが議決されました。

協議事項ではさらに、今後のブロック地方会のあり方についても議論しました。学術大会では筑波大会から、ブロック支部においても近畿ブロック地方会では今年度から、製薬企業等によるランチョンセミナーを行わない方針に転換しており、関東甲信越ブロックにおいても企業からの援助に依拠せずに開催する方向性について提起させていただきました。ご参加の代議員の先生方からは、方向性については理解できるものの、実際に開催を任される都県支部としては不安があるといった率直なご意見や、参加者数の大幅な増加を図るために、若手の参加を増やす努力をすべきといった前向きなご提案もいただきました。今後は、参加料の増額、主催都県支部に関わらず開催場所を集まりやすい場所にしていく等の方略も検討する必要があり、引き続き議論を継続していくこととなりました。

また平成 30 年度の第 7 回地方会につきましては、千葉県支部の林直樹先生からご準備の進捗をご報告いただきました。大会長を務める国際医療福祉大学医学部総合診療医学主任教授大平善之先生にも駆けつけていただきご挨拶いただきました。来年度は 11 月 18 日日曜日に、TKP ガーデンシティ千葉において開催予定となっております。

そして、今回大宮で開催された第 6 回地方会については、埼玉県支部の中根晴幸先生より途中経過をご報告いただきました。「高価値なプライマリ・ケアを目指して」というテーマに相応しい素晴らしい地方会となり、最終的には 450 名以上のご参加をいただきました。大会長の百村伸一先生、支部長の中根先生、事務局長の石田岳史先生をはじめ、サポートいただきましたスタッフの皆さんにおかれましては、今回の学会準備に際して多大なご尽力をいただきました。また学会本部からは丸山理事長にも駆けつけて頂きご挨拶を頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。来年も皆さんのご参加をお待ちしております。

関東甲信越ブロック支部 支部長 高柳 亮

2. 埼玉支部開催の第6回「関東甲信越ブロック地方会」の報告

11月19日(土)に大宮ソニックシティの7か所にわたる会議場・展示スペース、6か所の準備スペースをフル活用して挙行されました。好天に恵まれ、事前登録の220名の倍を超える県内外からの総参加者数450名余を数える盛況で、どの会場も熱気に満ちた学术交流が得られました。大会長に自治医科大学附属さいたま医療センター長の百村伸一教授を迎え、メイン会場で9時50分に開会挨拶に続き、会長講演「心不全パンデミックにどう対応するか」を皮切りに、続く教育講演、シンポジウムのいずれにも多数の参加をいただきました。講師、シンポジストの皆様には深く感謝いたします。PC連合学会の丸山泉理事長にも午前の教育講演より参加いただき、学会のさらなる発展に向け激励のご挨拶を賜りました。10時以降は5会場で全7つのワークショップ、シンポジウム、ポスター展示(32件)、ランチョンセミナーが開かれました。

地方会を主催する機会は10年に1度しかない…準備の段階からそんなハイテンションの中で、若い現役スタッフ主体の準備委員会が、繰り返し全8回行われました。プライマリ・ケアを世に知らせる時代を超え、一歩進んだメッセージは何か、参加者全員の感性にひびくタイトルを定めようと、「ハイ・バリュー(高価値)へのステップアップ」というメインテーマが全員の賛同を得て決定されました。

会場の設定も課題でしたが、従来の支部例会で馴染みの大宮ソニックシティをフル活用できるという最高の展開が得られ、400席収容の小ホールをメイン会場、その直上の国際会議場、他に100人規模でのワークショップ会場を4部屋並列して用意するなど、あとは参加者数が心配…というまでの準備ができました。

学会の流れを皆で検討しながら、準備の後半に在宅医療をテーマとしたシンポジウムを追加していただくなど、事務局には大いに助力いただきました。石田岳史副院長を中心としたさいたま市民医療センター内科の諸氏に感謝しております。また埼玉医科大学の大野洋一先生、柴崎智美先生には学会支部の事務に貴重な尽力をいただきました。また、地域連携の中心となって日ごろご協力いただいている埼玉県立大学、県看護協会、県薬剤師会、県歯科医師会の外、大宮医師会、与野医師会、岩槻医師会、さいたま市、などプライマリ・ケアに関心の深い団体からの後援をいただきました。

若い諸君と、指導者層の諸氏とがさわやかな熱気に満ちた交流を行なう、記憶に残る学会を挙行できました。大会長の百村先生ご自身から「私が一番沢山のテイクハウムメッセージを受け取ることができた、皆さんの熱い参加に感謝する」との謝辞をいただきました。(運営委員記念スナップ参照)

最後に、埼玉支部開催に向けて呼びかけをいただき、長らくの支援をいただいた関東甲信越ブロック支部の先生がたに深く感謝いたします。



関東甲信越ブロックでは、ニュースレターにてブロック会員の皆様の活動報告なども掲載する予定です。掲載希望の方は以下メールアドレスまでご連絡いただければと思います。

日本プライマリ・ケア連合学会 関東甲信越ブロック支部 事務局

kanto_koshinetsu(at)primary-care.or.jp
